



## 平成28年度 第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(平成28年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスは平年並みか下回る。

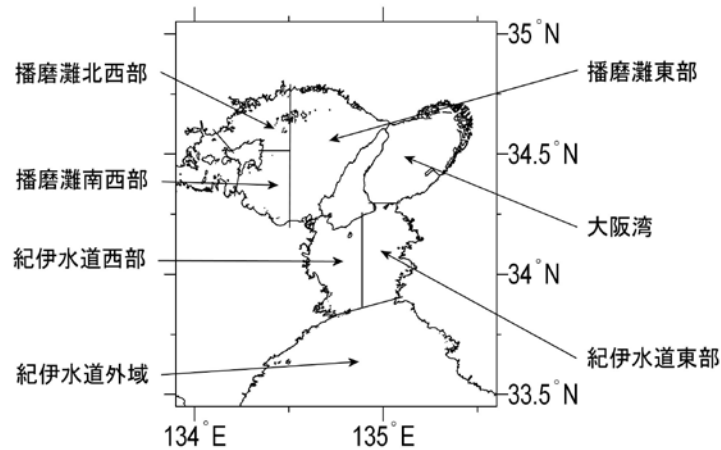
(2) 海域別：

紀伊水道東部・紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年を上回るが平年を下回る。

大阪湾・播磨灘北西部では前年と同様に平年並み。

播磨灘東部では好漁であった前年を下回り、平年並み。

播磨灘南西部では不漁であった前年並み。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所  
担当：業務推進部 日向野、吉田  
資源生産部 小畑、河野  
電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216  
当資料のホームページ掲載先URL  
<http://abchan.fra.go.jp/>

# 平成28年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

## 1. 今後の見通し（2016年5月～6月）

### シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部・紀伊水道西部のシラスは不漁であった2015年を上回るが平年を下回る。

大阪湾・播磨灘北西部では2015年と同様に平年並み。

播磨灘東部では好漁であった2015年を下回り、平年並み。

播磨灘南西部では不漁であった2015年並み。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、特に断りがない場合、1985年～2014年の平均値を平年値とした。

## 2. 漁況の経過（2015年1月～2016年4月）及び今後の見通しについての説明

### (1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2015年の漁獲量は前年の94%、平年（2000年～2014年の平均値）の66%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の44%、平年の50%であった。2016年春季シラス漁は4月18日から始まった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2015年の漁獲量は前年の116%、平年（1997年～2014年の平均値）の76%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の82%、平年の58%であった。2016年春季シラス漁は4月20日から始まった。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2015年の漁獲量は前年の118%、平年の106%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の83%、平年の122%であった。2016年春季シラス漁は4月6日から始まった。

大阪湾（大阪府）では2015年の漁獲量は前年の87%、平年の119%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の84%、平年の111%であった。2016年春季シラス漁は4月21日から始まった。

大阪湾（兵庫県）では2015年の漁獲量は前年の102%、平年の129%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の108%、平年の140%であった。2016年春季シラス漁は4月22日から始まった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2015年の漁獲量は前年の103%、平年の98%であった。2015年5月～6月は前年の75%、平年の190%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2015年の漁獲量は前年の188%、平年（1989年～2014年の平均値）の54%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の145%、平年の18%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2015年の漁獲量は前年の65%、平年（2000年～2014年の平均値）の112%であった。2015年5月～6月の漁獲量は前年の54%、平年の85%であった。

2016年の播磨灘における春季シラス漁は4月26日現在、始まっていない。

### (2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2016年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は102兆粒（前年比735%、平年比99%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に2粒/m<sup>2</sup>（前年比8%、平年比7%）、3月に3粒/m<sup>2</sup>（前年比13%、平年比2%）であった。仔魚密度は2月に2個体/m<sup>2</sup>（前年比35%、平年比24%）、3月に1個体/m<sup>2</sup>（前年比20%、平年比3%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m<sup>2</sup>（平年0.02粒/m<sup>2</sup>）、3月に0粒/m<sup>2</sup>（平年2粒/m<sup>2</sup>）

であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m<sup>2</sup>（平年0.1個体/m<sup>2</sup>）、3月に0.5個体/m<sup>2</sup>（前年比32%、平年比6%）であった。

### (3) 今後の見通しの説明（2016年5月～6月）

#### シラス（本年春季発生群）

4月21日現在、シラスの来遊環境に影響を与える黒潮流路は、都井岬と室戸岬でやや離岸、潮岬で接岸している。海面水温衛星画像によると、種子島南に小さな蛇行流路が形成され始めていることが確認できる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS 予測結果を併せて考慮すると、5月～6月における室戸岬から潮岬沖の黒潮は、小規模に離接岸するものの、概ね接岸した流路を示すと推測される。

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に依存する。4月21日現在、黒潮は潮岬で接岸し、5月～6月も接岸傾向が持続すると予測されているので来遊環境は概ね良いと考えられる。また日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2015年を上回り、平年並みである。しかし、3月に好調であった紀伊水道外域でのシラス漁は4月に入って徐々に低調になってきていることから、紀伊水道東部では不漁であった2015年を上回るが平年を下回ると予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量から判断すると紀伊水道西部では不漁であった2015年を上回るが平年を下回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。現在、黒潮は潮岬で接岸しており、5月～6月も引き続き、接岸傾向が持続すると予測されているので来遊環境は概ね良いと考えられる。紀伊水道外域でのシラス漁は4月に入って徐々に低調になってきているが、日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2015年を上回り、平年並みであることから、大阪湾では2015年と同様に平年並みと予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。播磨灘東部では大阪湾と同様の理由から平年並みで、好漁であった2015年を下回ると予測される。播磨灘北西部では大阪湾と同様の理由から2015年と同様に平年並みと予測される。播磨灘南西部では近年、来遊環境が良くても本漁期の漁は低調な傾向があるため、不漁であった2015年並みと予測される。

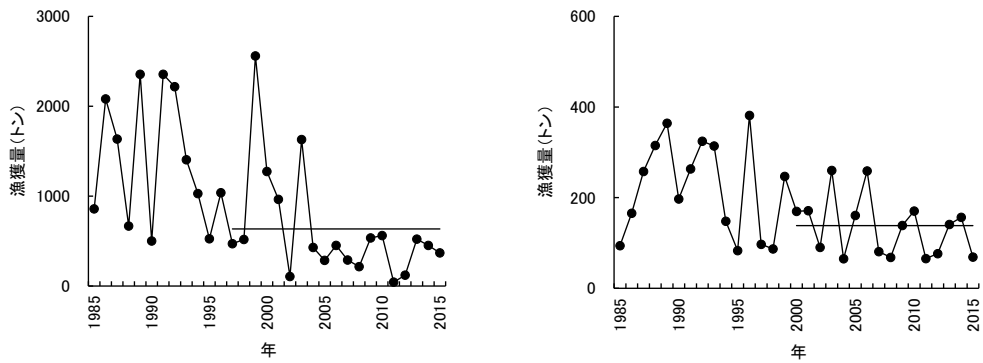


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値、左図：1997年～2014年、右図：2000年～2014年）

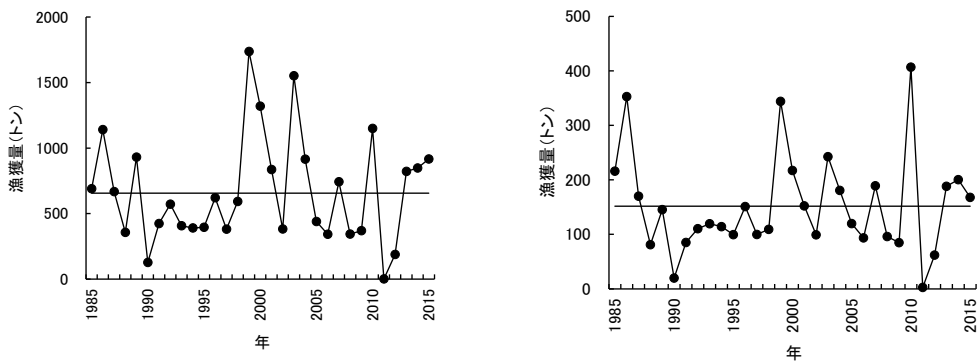


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は1985年～2014年の平年値）

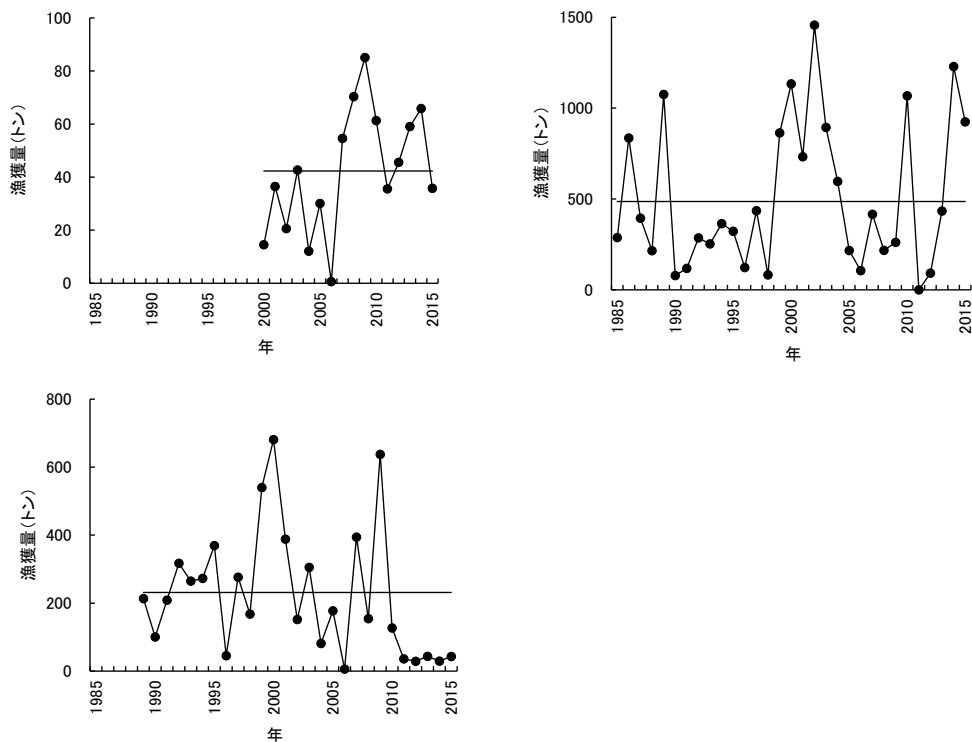


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値、左上図：2000年から2014年、右上図：1985年から2014年、左下図：1989年から2014年）

## 参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---